

皆様にはお変わりなく益々ご活躍の事と拝察致します。

今月号も楽しいお知らせ盛りだくさんで 68 号をお届けいたします。

## (1) 日本刀講演会と日本刀鑑賞会 in 川崎町を開催 (11 月 11 日)



**川** 崎町での一般者向けの行事として初めての開催となりました。

午前の部「日本刀と私たちの文化」と題した講演会は、講師を鈴木会長が務められ、御刀の各名称、鍛え肌の作り方、役職によっても異なる拵え、仙台箆笥のルーツが御刀を収納するためのものだったこと等、生活の傍らに日本刀の文化が深く根付いていたことを学ぶことができました。

会場に会長ご自身が持参された数々の御刀や拵えを示しながらのお話、参加者は頷きながら興味深々で聞き入り、時折ユーモアを交えたお話に笑みがこぼれる

こともあり始終和やかでした。

**ま** た、講演会の司会進行役として会長をサポートされた宮城事務局長も、御刀の姿形の変遷について解説され、参加者から「ほお～」という感嘆の声も。とても細やかで詳しいお話は大変勉強になりました。

午後の部「日本刀鑑賞会」には、午前の部から多くの方がお越しください、初めての入札にも積極的に参加してくださったのは嬉しい驚きでした。なかにはバッチリ当てている方も！初参加の方々も鑑賞時のマナーをしっかり守ってください、安全に、参加者全員が始終和やかで、楽しい鑑賞会となりました。帰り際に「なんか楽しかったあ～」と笑顔で感想を言ってくださる方もおられました。参加者総勢 30 名。参加人数歴代 2 位でした！

### ◆川崎町での開催に至った経緯のご紹介◆

**本** 催事は、過日、川崎町青根御殿より発見された古文書への後藤副会長による献身的な保全活動（※）がきっかけとなります。保全活動を通して川崎町教育委員会様・文化財保護委員会様と交流されるなかで、度々刀剣の相談を受けたこともあり、川崎町での鑑賞会開催を提案したところ、両委員会様からも後援頂けることとなり実現に至りました。（※）後藤副会長は刀剣の保全、古文書の保全と解説に尽力なさっております。今年の刀剣美術 4 月号（第 723 号）に掲載されました論文につきましては、皆さまご存知のことと思います。



## (2) 移動鑑賞会 in 青根温泉 湯元「<sup>ふぼうかく</sup>不忘閣」(11月11~12日)

川 崎町公民館を夕方出発し、一路、青根温泉 湯元「<sup>ふぼうかく</sup>不忘閣」へ。

(一部の方々は移動中の車内で御刀談義に熱が入り、お宿のある方向とは異なるところへ…)

伊達 62 万石の名湯！ 湯守の佐藤仁右衛門家は、伊達家から「湯別当」の高禄を賜り、保養所守りの役割を代々果たしてきました。現在は 21 代目 佐藤仁右衛門様が代々受け継いだ建物、品々を大切に、お宿を切盛りなさっています。

到着次第、情緒ある温泉で体を寛げ、美味しい食事とお酒と一緒に御刀談義に花を咲かせました。

更に二次会へ突入。年に一度の滅多にない機会。心ゆくまで御刀談義をしていたら日付が次の日になっており、慌てておひらきにしました。

一次会では川崎町での入札鑑定 順位表彰もあり、結果は…

- ◇ 天位 赤荻亨さん、
- ◇ 地位 國上涼さん
- ◇ 人位 三浦弘貴さん

…でした！ おめでとうございます！！

(鑑賞刀の詳細は鑑賞刀レポートを参照ください)

翌 朝は御殿の間の見学。言葉では表せられない大変貴重な品々が展示されており、今にも伊達家藩主が湯治から戻ってきそうな雰囲気です。

その他、作家山本周五郎は名著「縦の木は残った」の一部をこのお宿で執筆されており、案内役の女将さんから伺った、山本氏が執筆中に眺めただろう縦の木は、今も健在でした。

川崎町での講演会・鑑賞会に参加された会員の皆様、大変お疲れ様でした。

来年もまた、皆様と楽しい時間を過ごせますように！



### (3) 鑑賞刀レポート

川崎町での日本刀鑑賞会で出展された御刀のレポートです。

#### 【一号刀】 脇差 無銘 (来国俊極め) 鎌倉中期～後期 山城国

**本** 来は太刀であったが一尺以上の大磨上によって脇差として用いられるようになった細身な印象が強く残る大名拵付きの来国俊。

刃文は直刃仕立となっており、地鉄は小板目詰み「来肌」と呼ばれる弱い肌<sup>にえうつり</sup>が現れ鮮明な沸映りが立つ。帽子はフクラから真直ぐに鋒へ向けて突き上げ、小丸やや尖り、深く返って左右対称となる「富士形の帽子」であり、これが来国俊の大きな見所<sup>みどころ</sup>のひとつとなっている。

来派は鎌倉時代中期から南北朝時代までの間に隆盛を極めた流派であり、祖である国吉は高麗 (朝鮮) からの帰化人として伝えられ、山城伝の中では粟田口派<sup>あわたぐち</sup>と並ぶ二代流派のひとつとされている。

国吉には現存している作刀が残っていないため、その子である国行を事実上の祖として、国俊、国光、国次、光包、了戒など数多くの優れた刀工を輩出している。

また来国俊は「国俊」と二字銘<sup>にじめい</sup>に切る作品(二字国俊)と「来国俊」と三字銘に切る作品があり、作風の違いや作刀期間の長さから同人説と別人説に分かれている。

二字国俊にはその特徴とされる丁子の目立つ華やかな作品とは別に純然たる直刃調の作品があり、また三字銘の来国俊には直刃主調のものだけではなく、丁子が華やかになっている作品や表が丁子で裏が直刃の児の手<sup>こて</sup>柏<sup>かしわ</sup>になっている作品も現存しているので、現在は二字国俊と来国俊は同人であるという説が主流となっている。来国俊は長命であったため、その長い作刀期間の中で作風に変化が現れたのではないかと考えられている。

(赤荻亨 記)

#### 【二号刀】 太刀 銘「備」 鎌倉後期 備前国

**2** 尺 2 寸 7 分 元来 2 尺 8 寸程銘は「備」以下磨り上げ。

鎬造庵棟重ね尋常磨り上げにより元先の幅差<sup>さまで</sup>、然迄 (それほどまで) 感じず (測れば違う)。

反り深く先もやや反り気味、小切先ではないので鎌倉後期と思われる。

鍛えは板目に小板目、良く練れゆったりした杳目。柔らかさを感じる地肌。刃文は中直ぐ程の浅い湾れ。小足、葉入り小丁子小互の目調。映りは上から三分の二程丁子映り、元に向かい乱れ映りに暗帯<sup>あんたい</sup>の地斑<sup>じぶ</sup>混じる。景色通して匂い口と映りの間に暗帯が湾れ状にあり。

帽子、刃文は浅い湾れのままやや横手<sup>よこて</sup>を越え突き当りやや低くフクラに沿い三作<sup>さんさく</sup>様に返る。

◇ 一の札 古一文字 能く

◇ 二の札 福岡一文字 同然

2号刀は銘が「備」であると共に和気<sup>わげ</sup> (※) と観られているようです。

備前に関する例えは長船正系以外、脇物においては完成度に対する不具合、アンバランスさは何処かに出るように記憶していたのですが特に本刀帽子の刃文が整ってなく切先の欠けを直して横手を下げた（4～5ミリとかなり）のか？など。疑問がありました。答えを聞きましてその辺が脇物と素直に見ても良いポイントなのかなとも思いました。

(※) 和気系・・・備前和気庄一派 奈良朝より工廠地として栄えたが長船台頭により和気庄は政治文化の中心地となる。鎌倉中期より直宗一派（備前三郎国宗在）、末期より重助一派が僅かに伝わる。

和気清麻呂の出身地。僧道鏡と色々あった方です。調べてみては(‘ω’)ノ （三浦弘貴 記）

## 【三号刀】太刀 無銘（来国光極め）鎌倉末期 山城国

**鎧** 造り、庵棟、中反り、身幅やや広く、中鋒は延びどころ。重ね厚く、かなり重量感がある。鍛えはよくつんだ板目に、ところどころ杓目状の渦巻き模様がある。地沸がこまかにちりばめられており、沸映りが淡く美しい。刃文は直刃で小足が入り、小沸つく。刀身に棒樋と添樋がある。身幅の元幅と先幅にほぼ差がなく、2尺3～4寸程度の姿に磨上げられたと考えられるが、それでも尚、豪壮な印象を強く残している。

ちょうど鎌倉末期から南北朝への過渡期の作。鉏の「竹に二羽飛び雀」が伊達家伝来であることを示している。[個人所感] 鍛え肌が以前より見えるようになりつつあって、とっても嬉しい昨今。そのためか、鍛え肌から少しでも見えるものがあると無駄に食いついています。今回も例によって地沸と沸映りを心ゆくまで楽しみ過ぎて二の札までいきませんでした。「二字国俊」と「来国俊」が同一人物であれば、国光はその息子。親子共演です。

◇ 一の札 相州風情・鎌倉末期 イヤ

姿形から鎌倉末期から南北朝への過渡期 → 鎌倉末期にしておこう → 備前・山城・相州風情がある → 局所的に荒い肌があって、沸がある！（映りあるのに） → 相州だろう（映りあるのに）という思考プロセスでした。・・・当時を改めて振り返ってみると、沸映りの存在を完全に無視した入札をしていますね。相州風情であればもっと荒々しさがあると思いますし・・・。鉏が示す「竹に二羽飛び雀」が、最大のヒントで、伊達家に関わる御刀であることを如実に示していましたし、かつ政宗公は来物好き。山城物を検討してもよかったです。・・・今思えば、なぜ相州物と見てしまったのか・・・不思議で仕方がありません。

お父さん（国俊）の心地よい静謐な肌に対して、息子さんの局所的に少し荒い肌が父（祖父？）を追い越そうとする意気込みのように感じました。大変勉強になりました！（佐々木理恵 記）



## 【四号刀】太刀 無銘 (盛重極め) 室町中期 備前国

**先** 反りのついた大磨り上げの太刀、地鉄板目肌じがねに流れ肌交じり乱れ映りが立っている。

刃文は腰の開いた互の目で大きな尖り刃の様にも見える。この腰開きの互の目は末備前おうえいや応永備前でよく見られ他の時代ではあまり見られない刃文です。

この刀は穏やかな部分もありますが応永備前の中でも派手な方だと思います。室町初期の応永頃の作品で古くから傍系である大宮派の刀工であるといわれていましたが現在では長船の正系である盛光の子であるという説もあります。

室町中期から末期にかけての末備前であれば寸法が詰まって打刀の姿になり応永より少し時代の上がる小反りこそりであればもっと刃文が小模様になる所などが応永備前との違いだと思います。(國上涼 記)

## 【五号刀】刀 銘 藤島友重ともしげ 室町中期 加賀国

**鎬** 造り、庵棟、地鉄は小板目に総体に肌立ち、映り現れ、総じて鉄に黒みがある。刃文は腰の開いた互の目に、角互の目、尖り刃、小互の目、矢筈風やはずの刃、二重刃など交じり、小沸つき、砂流しかかる。

本作は棒樋ぼうひを区上まちうえで留めているところなどから、時代はそう古いものではないと観ることができる。

刃文に腰の開いた互の目があり応永備前とも考えられるが、その場合はより目立ったものとなり、丁子・互の目に尖り刃が交じり、匂出来においできに華やかに乱れ、小沸がつき、直映り・乱れ映りが鮮明に現れる作風となる。

また尖り刃などから関物せきものとも考えられるが、こうした備前気質と美濃気質を合わせ持った作風を考えたとき、友重ともしげが浮かび上がってくる。

指裏さしうらに部分的に黒い地鉄が見えるところがありますが、残念ながら研ぎ減りのため心鉄しんがねが見え始めているとのこと。しかし本来の形ではないものの、歴戦を潜り抜けたであろう御刀をこうして手に取り鑑賞していると思うと感慨深いものがありました。また日本刀の「折れず、曲がらず、よく切れる」を実現すべく考え抜かれた作刀構造を改めて実感することができ貴重な御刀を拝見させて頂きました。(今野利幸 記)

## (4) 福島南支部様主催の特別鑑賞会へ 3 名参加

---

**11** 月 19 日 (日) 熱海温泉「清稜山倶楽部」にて開催された特別鑑賞会へ鈴木会長、宮城事務局長、熊谷和平氏の 3 名が参加。

入札鑑定の結果、宮城事務局長は人位 (3 位)、鈴木会長は 4 位と高成績を収められました！  
当日の鑑賞刀は下記の通りです。

- 一号刀 刀銘、重末<sup>しげすえ</sup> (応永初期西暦 1400 年頃、長さ 2 尺 5 寸、反 5 分、備前刀)
- 二号刀 金象嵌銘 一文字 (鎌倉中期、長さ 2 尺 2 寸、反り 5 分)
- 三号刀 福岡石堂守次<sup>いしどうもりつぐ</sup> (脇差、寛文時代、長さ 1 尺 6 寸、反り 4 分)
- 四号刀 無銘 光忠極め (鎌倉中期、長さ 2 尺 6 寸、反り 6 分)
- 五号刀 短刀 金重 (南北朝中期、長さ 9 寸、反り 1 分 5 厘)

## (5) 会員通信

---

本ニュースの編集・配信・お菓子係の佐々木です(´・ω・`)クリッ

先日の川崎町での鑑賞会に参加された皆様、大変お疲れ様でした！

前の晩はお菓子を作る暇がなく、とりあえず市販のクッキー缶を持参したのですが、鑑賞会々場の休憩テーブルに大きなウェットティッシュが 2 つ、どんと置かれているのを見かけまして・・・なんとなく、心のなかで「ごめんなさい」と思いました (笑) クックパッドに掲載されている材料と手順をしっかりと守って作るのに、どうしてあんなに違うお菓子が出来上がるのだろう・・・作るたびに菓子職人さんの偉大さを感じずにはおられない今日この頃です。(ちなみに お菓子以外はちゃんと作れます・・・念のため申し上げておきます (笑) )

話代わりまして、鑑賞刀レポートでも少し触れておりましたとおり、最近、御刀の肌や地鉄がほんの少しだけ見えるようになりつつありまして、鑑賞する時に御刀との会話の幅が広がってきて、嬉しい♪

今までは見ることで精一杯だったところ、少しだけでも「見える」と気持ちに余裕が生まれるからなのでしょう、御刀の肌の具合を覚えることができるようになってきました。これも嬉しいです♪

残り少ない今年度と来年度にかけて、苦手な山城物と相州物をしっかり覚えて克服していけたらと思っています。まだまだお話ししたいことがあるのです。宮刀保会員のうち任意でお力添え頂いている「広報チーム」、川崎町の催事で、初参加の方々に御刀の取り扱いや礼法を初めてご指導できました (^▽^) v

いざお教えしてみますと、取り扱いの細かな所作や、プレゼンテーションの能力も、逆に教わるのが本当に多かったです。鑑賞スペースの一部を指導用スペースとしてお譲りくださり、チームの活動で至らない点をさりげなくフォローしてくださり、初参加の方々も和やかに過ごせる環境を整えてくださった会員の皆様に心より御礼申し上げます。

また初の試みに対してそれぞれが助け合って乗り切った広報チームの皆様も大変お疲れ様でした♪

今後とも皆様のお力添えの程よろしくお願い致します。

次回は年明けになりますね。皆様にとって穏やかな年末になりますようお祈り申し上げます。

以上、会員通信でしたっ (^▽^) ノ

<宮刀保の活動はコチラでチェックできます 周囲の方にお知らせください>

---

ホームページ : <https://www.miyagiokatana.com/>

Facebook : <https://ja-jp.facebook.com/MiyagiOkatana/>

Twitter : @OkatanaMiyagi

<ご意見・投稿の連絡先>

---

会員の皆様からの投稿お待ちしております (飛び入り大歓迎!)

本ニュースの配信先の変更、配信を希望されない方は下記へご一報お願いします

宮城県美術刀剣保存協会

●塩竈神社博物館内 E-Mail : [okatana-pref.miyagi@piano.ocn.ne.jp](mailto:okatana-pref.miyagi@piano.ocn.ne.jp)

鑑定会ニュース編集係 事務局 佐々木

●E-Mail : [apfel\\_torte@nifty.com](mailto:apfel_torte@nifty.com)